

---

# マジで恋する5秒前。

あずまひとみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マジで恋する5秒前。

### 【Nコード】

N7153C

### 【作者名】

あずまひとみ

### 【あらすじ】

ウザイ。キモイ。が口ぐせの冷血漢と、言葉が古いバカ女。無口×鈍感の、テンション高めなlove story.

「お願い!!」

ああ私は…

「今日1日だけでいいから!!」

なんてことをしてしまったのだろう。

「私の彼氏になって!!」

よりにもよって、飛鳥にこんなお願いをすることになるなんて。

「……帰れば？」

そうくると思った!!

ことの発端は2日前、中学の時の友達からの電話だった。

「私彼氏できたの!もーラブラブッ」

「マジ!?おめでとー!!」

「ありがとう。ところで琉依は？」

「えっ何が？」

「彼氏!できたの?…ああ、無理だよ、琉依は。だって」

ここでカチンときた私は思わずこう口走っていた。友達の言葉を最後まで聞かずに。

「私だっているから!彼氏!なんなら会わせてあげようか!？」

言ってしまったから後悔の嵐。

「……………マジで？」

「マジで!!」

「じゃあ…会わせてよ。あさっての日曜日、いつものファミレスで11時ね」

「分かった11時ね!!」

勢いのまま電話を切ったが、よく考えたら私は彼氏などいない。よく考えなくても彼氏などいない。そもそも生まれてこの方出来たことがない。

焦った私はとっさに思い浮かんだこの男 ……目の前でいやそ

くしている、幼なじみの飛鳥に彼氏役を頼みにきたというわけだ。  
現在時刻は9：30。

土下座までしているのに飛鳥は首を縦にふらない。いい加減ムカつく。

「いいじゃない！！会ってる間だけなら！！」

「……………」

「無視してんじゃないわよ！！」

「はあ……………」

「……！OKしてくれる！？」

「……………うざっ」

「……………ッッ！！もーいいよっ！帰るッ！」

あんたなんかに頼んだ私がバカでした！！ この冷血人間！！  
そもそもコイツは昔からこーゆー奴だ。人が困ってる姿を見て楽しんでんのよ！！「じゃーねッ！」

乱暴にドアを閉めて階段をかけ降りる私の背中に、飛鳥の声がかかった。

「待てよ。やってもいいけど」

「…ホント？」

「ああ。その代わり……」

「“昼飯おこれ”ね？任せて！」

「……………じゃあ時間になったらおまえン家行くから」

「合点承知の助！！ありがとうっ」

そうして1時間後、私たちは待ち合わせ場所のファミレスに向かった。

道中ずっと黙り込んでいる飛鳥をほっというて、私はボロがでないか今日の会話をシミュレーションする。

「久しぶり〜。これが私の彼氏よ うふ」

「……………キモッ」

何か聞こえたけど潔く割愛。

「さあ〜着いた着いた！」 ……席を探すのに夢中な私は気づかない。

後ろの飛鳥が、苦しそうで哀しそうな表情をしていたことなんて。

4人がけのテーブルとイスに、向かいに友達の由香とその彼氏。  
左隣に飛鳥。

「え…てか、飛鳥くんじゃんどこが彼氏？」

「かかかか彼氏じゃんどっからどう見ても」

「どっからどう見ても琉依と飛鳥くんは幼なじみでしょ。…本当にくつついたの？」

そこで由香は意味ありげに飛鳥に視線を送った。というより…目配せ？

何さ！！私が信じられないのか！！

「…本当だよ」

飛鳥がもの凄く小さな声で言う。

何か…家出たときより機嫌悪くない？

「じゃあ聞くけど…どっちから告白したの？」

オイ由香！！

ふつーそこ聞く！？

細かいとこまで考えていなかった私はそりゃあもう焦った焦った。

「俺だよ」

「え」

飛鳥？

「俺が告白した」

「……………ホントに？」 由香の目が真ん丸くなる。

「飛鳥くん…頑張ったのね。オメデトウ！長かったでしょ」

……………はい？由香さん？

「琉依鈍いもんね。16年間の片思いがようやく実ったんだあ」

何の話？飛鳥が…片思い？

そのまま由香と飛鳥（と、たまに彼氏くん）は会話を続ける。店を出るその時まで私はただ呆けていて、由香に声をかけられるまで気づかなかった。

「琉依！」

「あ…なに？」

「飛鳥くん、大切にしなよ。あんたに16年間悪い虫がつかなかったのは飛鳥くんのおかげなんだから」

それはつまり…今まで1度も彼氏ができなかったのは、コイツのせいってこと？

「じゃーね」と別れの言葉を口にして、由香と彼氏は去っていった。

とりあえず当初の問題は解決したらしい。

……………けど。

「え」と……………」

ちら、と斜め後ろに飛鳥を見る。

「あんたって私のこと好きだったの？」

「……………そうだけど悪い？」

衝撃の事実。

「……彼氏役頼まれて嫌だったんじゃない？」

好きな相手に“ふりだけ”頼まれるなんて、絶対つらい。

「そうだけど、他の奴に彼氏役やられるくらいなら俺がやる」

それだけ言うと、飛鳥はまたフィツ、とそっぽを向いてしまった。

「…そつか…飛鳥は私のこと好きなんだ」

…なんでだろう。嫌じゃない。

むしろ、嬉しい気さえする。

「…どうしてくれるの？あんたのせいで私今まで独り身だったんじゃない」

照れ隠しに言ってみる。…なのに。

「いいんじゃない？代わりに俺が手に入ったんだし」

飄々とコイツは…。

飛鳥の顔が近づいてくる。唇は、そのまま重ねられた。

……ああ。きっと私は、この直後には恋に落ちている。

まさに今が、『マジで恋する5秒前』ってやつなのだろう。

“逃がさないから”

声が、聞こえた気がした。

『あんたにも一応赤い血が流れてたんだ』

『……ケンカ売ってんの？』

E  
N  
D



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7153c/>

---

マジで恋する5秒前。

2010年10月8日14時53分発行